



2021 年度  
第 48 号

# 体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1  
文体部  
人権尊重される  
体育現場支援強化



2  
全明奎  
強圧訓練に反発した  
趙ジェボム  
コーチになると暴力連鎖



3  
国威宣揚がなぜ  
減刑理由なのか  
実型を避ける  
体育人たち

6  
一度でも大変な  
ミートゥー  
スケート選手は  
なぜ二度やったのか

4  
「男性天下」スポーツ界…  
セクハラされても  
我慢しなければ  
ならなかった

7  
崔スクヒョン仲間の  
2次、3次被害  
悪い記憶だけでも  
消えますように

5  
222 回金を奪ったコーチ、  
偏った判決の対価で  
1 億ウォン  
かすめた審判

8  
学暴選手  
ワンストップシステムで  
大学進学から  
韓国代表大抜擢まで防ぐ



## 01 ニュースピム 2021.12.22

## 【業務報告】 文体部「人権尊重される体育現場支援」強化

文化体育観光部は22日、来年度目標で「世界を先導する文化強国、国民が体感する文化日常」を業務計画で推進することにした。



体育分野の場合、スポーツ産業支援とクラブ活性化に重点を置いた文体部は「人権強化」にも一層努力する予定だ。まず、人権が尊重される体育現場のための支援を強化する。専門体育現場で人権を強化しながら、競技力を継続的に向上を図ることにした。このため、スポーツ科学投資に126億ウォンを投入するなど、スポーツ科学に基づく選手育成パラダイム転換に努めることにした。

体育分野の人権尊重と公正な生態系造成のため文体部は昨年8月、スポーツ倫理センターを開設した。また今年2月には学校暴力根絶のための対策などを発表した。

文体部はスポーツ倫理センターの専門性を強化するため、人材及び地域事務所（今年3カ所拡充→2022年5カ所）も拡充し、学校暴力加害選手懲戒情報共有による大会出場制限及び人権教育拡大など学校運動部の暴力を根絶する政策も引き続き繰り広げることにした。

学校暴力加害選手懲戒情報共有による大会出場制限など制裁も強化することにした。このために人権教育拡大で学校運動部暴力根絶政策を継続的に進める。

2018平昌冬季五輪とパラリンピックの成功開催による朝鮮半島の和解雰囲気も図る。来年2月、北京冬季五輪が開かれた後の2024年には、江原道で冬季青少年オリンピックが予定されている。青少年オリンピックは江陵、平昌、<sup>カンヌン</sup>横城、<sup>フエンソソ</sup>旌善の4カ所で開催される。

出典：<https://www.newspim.com/news/view/20211222000560>

## 02 韓国日報 2021.12.21 [歪んだスポーツ]

ジョンミョンギョ <sup>チョ</sup>全明奎強圧訓練に反発した趙ジェボム、コーチになると暴力連鎖

「弟子たちが叩かないから全明奎教授が悪口を言ったんですよ」（元ショートトラック代表チームコーチA氏）  
「全明奎教授の庇護で個人講習をしたコーチたちは毎月数千万ウォンを稼いだりしました」（元スピードスケート代表チームコーチB氏）

スケート界「悪の軸」と評価された韓国体育大前教授全明奎（58）氏が罷免されてから2年経ったが、彼が残した悪習は依然としてスケート界をさまよっている。元スケート選手たちはスケート界に各種事件事故が多いのにはそれだけの理由があると証言した。金メダルにすべてをかけて全氏に強圧的な訓練を受

けた選手たちは「暴力コーチ」に変身し、彼らは全氏が独占したスケート競技場を使用して私設講習で金を稼いだ。問題を起こして懲戒を受けても多くは現場に戻ってきた。



趙ジェボム同僚の証言「被害者が加害者として」  
A氏は全氏が監督を務めていたショートトラック  
国家代表チームに抜擢され、2000年代初頭に引  
退した。彼は国家代表チームとして活動した5、  
6年の間、指導者たちの暴行に集中的にさらされ  
た。A氏は韓国日報と会って感情的な体罰を常習  
的に受けたと話した。彼は「指導者の部屋に連れ

て行かれて暴行された記憶のため、今も狭い空間に一人残されると心的に辛い」と伝えた。

A氏が全氏の下で訓練していた時期に趙ジェボム氏が代表チーム選手に合流した。A氏が覚えている趙氏は、か弱い性格の持ち主だったという。彼は「(趙ジェボム)先輩は私の殴られる光景を見て“こういうことなら私は選手としてやって行けない”と自ら太陵選手村を出たこともあった」と話した。

全氏は弟子たちに自分の訓練方法を強要した。2000年代後半、ショートトラック代表チームのコーチも務めたA氏は当時、韓体大教授であった全氏が、弟子たちを殴らない自分を責め「子供たちを獣のように操れ」と悪口混じりの指摘を度々したと証言した。

一方、趙氏は全氏の「教え」に忠実に従った。2011年から7年間、シム・ソクヒ選手など弟子たちを常習的に殴打して訓練させた。選手時代とは異なりコーチになった後からは暴力を受け継いだのだ。

コーチ達が全明奎氏に付き従った理由は他にもある。2010年ごろから2年間、韓体大スケート場でショートトラック代表チーム補助コーチとして働いていたB氏は「全氏がスケート場の貸館権限を独占していたが、全氏の弟子出身のコーチたちは学生数十人を率いて韓体大で個人指導をした」と話した。B氏は「ショートトラックの学生10人以上を講習すれば月に1,000万ウォン以上稼ぐが、趙氏が韓体大で講習した学生は40人を超える時もあった」とし、「全氏の庇護を受けたコーチは“歩き回る中小企業”と呼ばれた」と伝えた。

全氏が韓体大スケート場を私物化した行動は2019年2月に実施された教育部総合監査を通じて一つひとつ明るみに出た。

#### 「悪習は終わらない…被害者に沈黙強要」

それならスケート界は全明奎の陰から抜け出したのだろうか。残念ながら大半のスケート人は悪習は消えなかったと口をそろえる。スポーツ人権研究所事務局長を務めている鄭<sup>ジョン</sup>ヨン Chol西江大教授は「選手暴行などで物議を醸して退出したスケート選手と指導者たちが6ヵ月～1年後に現場に復帰する事例が少なくない」と分析した。実際、大韓体育会によると2014～2020年の各種不正で懲戒を受けた体育人1,171人のうち31% (372人) が復職したり再就職した。スケート種目では78人中39人が現場に戻り、「復帰率」が50%に達した。

懲戒された人が何もなかったかのように復帰すれば、さらに深刻な問題につながる可能性がある。鄭教授は「加害者たちが復帰する姿を見守った被害者たちは、虚脱して無気力になるしかない。結局被害者をさらに沈黙させるよう強要するものだ」と指摘した。



現場に戻る監督・コーチたちや残っている指導者たちすべてが「一家」だという認識が膨らんだのも問題だ。特定の学校出身が独り占めするスケート界の閉鎖的構造のためだ。金デヒ釜慶大教授は「韓体大出身にだけ支援を後押しするスケート界の慢性的な病廃は相変わらずだ」とし「他の大学と地域のスケートインフラを育てて競争者が出るように誘導する必要がある」と指摘した。

指導者が弟子の一举手一投足に関与する旧時代的な訓練方式も改善しなければならないという指摘もある。金教授は「スケート種目では個人指導が一般化しており、指導者の過剰介入と監視を当然のように受け入れる傾向がある」とし「指導者は訓練にのみ関与し、選手生活は別途管理者に任せることも検討しなければならない」と言った。

[インタラクティブ]全国「懲戒体育人」1,187人の現状を公開

ページリンク：[https://interactive.hankookilbo.com/v/athletics\\_discipline/](https://interactive.hankookilbo.com/v/athletics_discipline/)

※ポータルサイト環境でインタラクティブに接続するには、上記のアドレスを選択して新しいインターネットウィンドウに貼り付けてご覧いただけます。上記の住所が表示されない場合は、韓国日報ホームページをご覧ください。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021120818200000733?did=NA>

### 03 韓国日報 2021. 12. 20 [歪んだスポーツ]

#### 「国威宣揚がなぜ減刑理由なのか」実型を避ける体育人たち



暴力・性暴力・金銭収受・勝負操作など大韓体育会が定めた4大犯罪で裁判に引き渡された体育人がこれまでの「功労」を認められ、1審から罰金や執行猶予のように軽い処罰を受けていることが分かった。これは韓国日報が各種不正容疑で起訴された体育界の判決文に記載された量刑事由を分析した結果だ。

韓国日報が2005年から昨年まで暴力・性暴力・金銭収受・勝負操作の疑いで起訴された体育人たちの1審判決文85件を分析した結果、**量刑事由に「指導者・選手・審判**

**としての功労や業績**」などの内容が含まれた事件が14件に達した。このうち10件は実刑ではなく罰金と執行猶予が宣告された。体育人として功労や業績があれば罪を犯しても減刑事由になるという意味だ。長期間繰り返し行われる体育人犯罪の固執的な特徴は判決文にもそっくり込められていた。障害者特殊競技指導者A氏は2010年5月から2年3ヶ月間、競技力・精神力強化を名分に重度障害のある男女選手3人を10回にわたって暴行した。A氏は「国際大会参加のために飛行機費用が必要だ」と金品を受け取ったりもした。

仁川支法はしかしA氏に実刑ではなく懲役8ヶ月に執行猶予2年を宣告した。裁判部はA氏が長時間選手たちを誠実に指導し国際大会でかなりの成果を収めるなど、体育界に寄与した点を量刑事由にした。

未成年の弟子をセクハラした指導者もこれまでの貢献と誠実性を認められ実刑を避けた。慶南晋州<sup>チンジュ</sup>の小学校体育教師 B 氏は赴任してから 1 ヶ月が過ぎた 2016 年 4 月から 2017 年 9 月まで 10 回にわたり 12 歳の学生 5 人をセクハラした。しかし B 氏は 1 審で懲役刑ではなく、罰金 3000 万ウォンを宣告された。裁判所は「若い被害者たちの健全な性観念を歪曲して悪影響を与えたという点で罪責が軽い」としながらも「被告人がこの事件以外は相当期間誠実に教職生活をしてきたと見られる」と罰金刑を宣告した理由として明らかにした。

勝負操作犯罪の量刑事由にも被告人の「功労」が含まれた。特定チームに有利な偏った判定対価として 2008 年から 4 年間、バスケットボールチームの指導者から 16 回にわたり 2,650 万ウォンを受けた慶南地域バスケットボール審判 C 氏は懲役 8 ヶ月に執行猶予 2 年を宣告された。裁判部は「バスケットボールの発展のために努力してきた功労があり今後も寄与するだろう」という点を執行猶予宣告の理由とした。選手に詐欺をした指導者も体育界に及ぼした功労があるという理由で軽い処罰となった。慶北地域ボクシング監督 D 氏は 2013 年実業チーム入団契約が成就した弟子 4 人を相手に「良い条件で契約してくれた体育会幹部に挨拶しなければならない」とし、2 年間 5 回にわたり 1,500 万ウォンを謝礼費名目で巻き上げた。しかし D 監督の量刑は懲役 1 年に執行猶予 2 年だった。

裁判部は「体育教師として長期間在職して地域ボクシングの発展のためにかなりの貢献をした」とし、これを量刑理由の一つとして挙げた。判決文によると D 監督は 2015 年から約 9 ヶ月間、地域体育会傘下のボクシング協会副会長として活動した前歴があった。



功労と寄与、国威宣揚などは最高裁判所の量刑委員会が定めた殺人、賄賂、性犯罪、横領・背任、窃盗、詐欺、選挙など 41 の犯罪軍の量刑減輕要素に含まれていない。本報の判例分析を諮問した法律サービススタートアップ「リーガルエンジン」の朴ソンナム弁護士は「被告人が建てた功は犯罪被害と直接的に関連がないのに、このような部分が量刑要素に入るということは問題がある」とし「事案別に慎重に適用する必要がある」と話した。

2019 年、国家人権委員会の「スポーツ分野の性暴力・暴力事件判例分析および救済策研究」を行ったジョン・ジウォン弁護士も「1 審量刑が上級審で変わる事は多くないため、裁判初期に「功労認定」を簡単に受け入てはいけない」と明らかにした。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021101114090004239?did=NA>

#### 04 韓国日報 2021. 12. 21 [歪んだスポーツ]

##### 「男性天下」スポーツ界…セクハラされても我慢しなければならなかった



女子ソフトボール大学チーム監督 A 氏は選手たちを継続的にセクハラした。A 氏は自分の部屋に選手たちを呼び、掃除と洗濯、皿洗いをさせた後、肩と首、ふくらはぎと膝、太ももを手もみした。A 氏は選手の太ももを枕にし横になって耳かきをさせた後、足がしびれた選手が体を動かすと「痛いか」と太ももに触れたりもした。A 氏の醜行は確認された

だけで2014年から2年以上27回に達した。被害選手は6人で、このうち一部は当時未成年者だった。A氏の常習醜行は事件発生3年が過ぎた2019年9月、一部の選手が国家人権委員会に陳情書を出して知られた。人権委はA氏を検察に告発し、大韓体育会に懲戒を依頼した。A氏は結局懲役2年6ヶ月実刑とともに体育会から4年の資格停止懲戒を受けた。

A氏の事例のように体育界で性暴力事件は隠されやすく長期間繰り返される特徴がある。性暴力事件のほとんどが指導者と選手という絶対的な上下関係の中で発生するからだ。特に競技出場から進学まで指導者は選手の人生を左右するほど強力な影響力を行使するため、被害事実を外部に知らせにくくしている。

A氏も15年間指導者生活をして国家代表選手を選抜する大韓野球ソフトボール協会の競技力向上委員として活動し、国家代表コーチと常備軍監督まで歴任するなど組織内で“絶対権力者”として君臨した。

女性スポーツ人に対する性暴力が根絶されない裏には、男性指導者中心の体育界の現実がある。特に指導者の場合には過去に比べて多く改善されたとはいえ、依然として男女性比の不均衡が大きい。

今年、大韓体育会に登録された（同好人除く）アマチュア60種目指導者2万3,768人のうち、女性は4,223人で男性（1万9,545人）の5分の1レベルだ。プロスポーツの場合には男性の偏重がさらにひどい。韓国プロスポーツ協会によるとゴルフを除いた国内プロ4大種目（サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール）指導者（監督・コーチ）469人のうち女性は11人に過ぎなかった。男子種目（サッカー、野球、バレーボール、バスケットボール）指導者は416人全員が男性であり、女性種目（バレーボール、バスケットボール）も指導者47人のうち男性が36人に達し、女性は11人だった。

シン・ヘミ韓国女性スポーツ会理事は「プロスポーツの場合、女性選手は出産後のキャリア断絶があって、以後リーダーになるための門がとても狭くなる」と伝えた。シン理事は「アマチュア体育界は女性指導者の処遇が相対的に劣悪で、女性指導者が根付く土壌さえひっ迫している」とし「男性中心に組まれたスポーツ界の指導者養成システムを直していく必要がある」と指摘した。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021120417300000375?did=NA>

## 05 韓国日報 2021. 12. 20 [歪んだスポーツ]

### 222回金を奪ったコーチ、偏った判決の対価で1億ウォンかすめた審判

「お母さん愛してる、その人たちの罪を明らかにしてください」



トライアスロン（鉄人3種競技）国家代表出身の崔スクヒョン（23）選手が昨年6月に極端な選択をした日に最後に残した文字メッセージだ。崔選手は2017年から2年近く金ギュボン前監督と主将チャン・ユンジョン氏など監督と先輩たちに継続的に過酷な行為を受けた。崔選手が暴行されている場面を見た同僚選手ジョン・ジウン（24）氏は韓国日報に「スクヒョンは1年に100回以上殴られた」と証言した。

大韓トライアスロン協会は崔選手がこの世を去って一ヶ月後の昨年7月、金前監督とチャン氏を永久除名した。崔選手を暴行した別の先輩には資格停止10年の懲戒を下した。最高裁判所も先月11日、金元監督に懲役7年を、チャン氏には懲役4年を宣告した原審を確定した。

彼らを罰して懲戒しても繰り返される不正と軽い処罰で、続く体育界の慢性病が消えたのだろうか。23歳の若い選手が人生を終える直前、体育界の不正根絶を遺書のように残したが、今でも問題となったスポーツ指導者と審判、選手たちは何もなかったかのように現場に戻っている。

19日、大韓体育会によると昨年1年間に体育会が指定した4大犯罪（暴力・性暴力・勝負操作・金銭收受）を犯して種目別協会の懲戒を受けても再就業に成功した体育人は13種目で30人にもなった。崔選手が人生を終えた後も変わったことはなかった。昨年8月から今年7月までに4大犯罪で懲戒を受けた指導者と審判、選手が82人にもなった。

その原因は被害者が沈黙するしかない構造的現実にある。学校運動部時代から10年以上指導者暴行に苦しんだという元スケート選手チョン・ヒョクジュ(仮名・33)氏は「選手たちは暴行と人権侵害にあっても沈黙する。加害者が体育界で活動し続けるという事実を知っているため」と話した。問題提起する選手たちは「再びこの種目に足を入れることなく永遠に去る覚悟をしなければならない」という言葉が出てくる理由だ。

被害者の訴えとうめき声は判決文でも確認される。韓国日報が2005～2020年の体育界役員らが暴行・性暴力・金銭收受・勝負操作などで起訴された1審判決文85件を分析した結果、体育界役員らの4大犯罪は長期間繰り返し行われていると把握された。それだけ間違った慣行と強圧的な文化が体育界全般に深く染み込んだためと見られる。

### 10ヶ月間10回繰り返し…70%は大人が犯した

韓国日報が分析した1審判決文85件に登場した体育人たちの暴力・性暴力・金銭收受・勝負操作事件を分析した結果、平均306日の間9.5回にわたって犯行がなされた。被害者1人に同じ犯罪を10回近く繰り返して10ヶ月間犯したという意味だ。

犯罪のほとんどは弟子や後輩に直・間接的に影響力を行使することができたり、競技進行の公平性を守らなければならない人々が主導的に犯した。4大犯罪の中で学校・実業チーム監督、コーチ、講師、館長などの指導者が加害者として登場した事件は50件に達し、全体分析判決文の59%を占めた。

先輩選手、審判、種目別団体及びチーム幹部などが関わった事件を合わせれば、いわゆる「体育界の大人たち」によって犯された犯罪割合は70%を超える。

スポーツ不正犯罪が特定種目に偏重していないことも判決文分析を通じて確認された。人気スポーツである野球・サッカーだけでなく、スケート・水泳・テコンドーのように世界大会が開かれれば国民の関心が集中する種目、そしてeスポーツと縄跳びまでなんと25種目に達した。

### 223回金を稼いだコーチ、151回にわたって1億ウォン着服した審判

金品收受は体育人たちが犯した4大犯罪のうち「長期間」「繰り返しの」犯行の特性が最も顕著なタイプの事件と分析された。金品收受は全体不正事件85件中26件で最も多く、犯行期間は平均1年2ヶ月(432日)に達し、その期間中20回にわたって金品が行き交った。

金品收受事件の中では中学校レスリング部コーチが13歳の弟子を相手に4年10ヶ月間223回にわたって1,046万ウォンをむしり取った事例もあった。このコーチは指導者という優越的地位を利用して弟子が要求した金品を持ってこないたびにレスリング訓練をかこつけて彼を暴行した。コーチの金品要求に苦しんだ弟子は夜間に宅配アルバイトまでし、上納するお金を用意しなければならなかった。バスケットボール

の指導者から偏った判定を求められ、5年間に1億ウォン余りを151回にわたって上納を受け取った審判もいた。

ホ・ジョンフン体育市民連帯代表は「このような事件は現場で黙々と働いてきた体育人たちには恥ずかしいこと」としながらも「問題はこういう非道な役員がまだ体育界に多いという事実」と話した。

体育界の一部では金品の受け渡しや長期間繰り返し行われる理由として劣悪な処遇を挙げることもある。雇用が不安定で給与も高くなく、金品不正誘惑に乗りやすいということだ。

国民体育振興公団傘下の韓国スポーツ政策科学院が昨年12月に出した「2020体育人実態調査」によると61種目指導者2万4,712人のうち74.1%は非正規職だった。学校運動部や公共スポーツクラブなどの指導者収入は年間1700万~2500万ウォンで、賃金労働者年平均収入の52~70%水準だ。チョン・ヒョヌ韓国スポーツ政策科学院博士は「最近、指導者たちの雇用形態が無期契約形態に転換されているが、ほとんど最低時給をやっと超える実情であり、指導者のキャリアが積もっても年俸は上がらない構造的問題もある」と話した。

しかし、処遇問題が体育人の金品收受行動を正当化することができないというのが専門家らの大半の意見だ。ホ代表は「身分の安定性を失った体育人の一部がこのような行為で“冒険”をする」とし「より強い懲戒などで逸脱が合理化できないという認識を植える必要がある」と話した。

### 性犯罪も犯した「弟子暴行」

テジョン大田のある小学校女子バスケットボール部コーチは11歳に過ぎなかった弟子9人を相手に長期間にわたって過酷な行為をした。コーチは試合に負けたという理由で頭を鍵で殴るなど1年5ヶ月間19回に渡って弟子たちを交互に暴行した。殴打をした時期に、被害者9人中6人はセクハラもあった。指導者が暴行と性暴力を共に行使したのだ。

専門家は、指導者が選手に与える暴力は性暴力と密接に関連していると説明した。スポーツ人権研究所事務局長を務めているジョン・ヨン Chol西江大教授は「監督とコーチは競技力向上を理由に選手の私生活を統制し訓練過程で暴力を使うが、これを“愛のムチ”と美化してはならない」と指摘した。

選手をいとおしんで殴り、けがをした部位に薬を塗りながら慰めるのが代表的だが、一部の選手たちは一年以上このような経験を経れば感情が崩れることもある。キム・デヒ韓国体育政策学会常任理事（釜慶大教授）は「指導者の暴力が性暴力につながる場合を見れば、ほとんどこのような過程を経ることになる」とし「指導者の暴行が長く繰り返されるほど、選手が性犯罪にさらされる危険性も高まる」と分析した。韓国日報が分析した体育界指導者の弟子暴力事件もほとんど「長期間一反復的」という側面で性暴力につながる可能性を内包していた。単発性で終わった事件はほとんどなく、ほとんど6ヶ月以上にわたり少なくとも4回以上暴行が繰り返された。7年間、継続的に叩かれた10代の選手もいた。みんな指導者の言葉に絶対的に従わなければならないなど、位階を重視する文化の中で起こったことだった。

### 勝負操作も長期間・繰り返し「不法賭博サイト活用」

韓国日報が分析した体育界4大犯罪の中では勝負操作事件も少なくなかった。85件中23件で全体の27%を占めた。判決文に出てくる勝負操作犯行は、一度始まると平均7ヶ月間3回にわたって行われた。暴行や金品收受など他のタイプの犯罪と同様に、長期的に繰り返し行われる特徴を見せた。

判例分析を諮問した法律サービススタートアップリーガルエンジンの朴ソンナム弁護士は「勝負操作が意図通りに進まなければ、試みては失敗し再試行を繰り返しながら犯行期間と回数が増えた」と説明した。



不法賭博サイトを活用した勝負操作事件の割合も 60%に達した。朴弁護士は「勝負操作を行ってやめさせられた運動選手が不法賭博サイトを利用する専門ブローカーになる場合が多い点も勝負操作が繰り返される理由」と分析した。実際に 23 件の勝負操作事件のうち半分近い 11 件が専門ブローカーによる犯行と集計された。

専門家たちは勝負操作の根絶のためには違法賭博サイト会社はもちろん、ブローカーと利用者の両方を強く処罰しなければならないと口をそろえた。キム・デヒ教授は「勝負操作に巻き込まれる現役選手たちは、“前職先輩”のブローカーたちの誘惑に負けて自分のプレイが勝負操作だとも知らないことが多い」とし、「選手処罰や懲戒にのみ集中してはならず、不法悪質業者と利用者すべてを厳格に取り締まらなければならない」と話した。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021120519370004691?did=NA>

## 06 韓国日報 2021. 12. 21 [歪んだスポーツ]

### 一度でも大変な「ミートゥー」 スケート選手はなぜ二度やったのか



スケート選手を辞めた大学生のハ・ジョン（21、仮名）さんは爪をピンク色に塗っていた。一見すると派手に見えたが爪先の肉は見苦しくなっていた。ハさんは「不安だからどんどん剥がれる」と話した。手首には 3 cmほどになる傷も見えた。自害を試みて縫った跡だった。彼女は韓国日報に「コーチだった朴サンジン（仮名）氏が私の人生に関わってからうつ病になった」と淡々と話し続けた。

2019年1月、コーチのセクハラや暴行など人権侵害行為をマスコミに知らせたスケート選手が韓国日報を通じて再度「ミートゥー」を宣言した。暴露後も大韓体育会やスケート連盟、そして捜査機関は彼女に特に興味がなかったからだ。すると周辺からハさんが助けの手を避けて隠れてしまったと言われたりもした。その間、加害者として指名された朴氏は懲戒どころか指導者生活のために再就職を試みたというニュースまで聞いた。

ハさんは「2019年“スケート界ミートゥー”が爆発し周辺の勧誘でメディアインタビューを何度もした。ところが、実質的に解決されることはなかった」と話した。結局、捜査機関のドアを叩いて自ら解決すべき問題だと結論付けた。ハさんが去る4月、加害者を警察に訴えた理由だ。この事件は現在、検察に起訴意見として送致された状態だ。

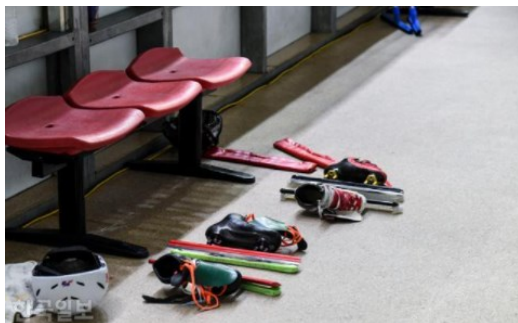
#### 「じっとしているとバカになると思った」

2019年初め、ハさんは「1次ミートゥー」を通じて被害事実を知らせたが、自分が朴氏を直接告訴するまで事件は2年以上埋もれていた。当局の調査は全くなかった。検察は当時、教育部から事件の通知を受けて内偵したが、ハさんが調査に参加しにくいという理由を挙げ、却下処分した。

ハさんが受けた衝撃はまたあった。朴氏が昨年12月、ソウル市役所スケートチーム指導者募集に応募したというニュースに触れたのだ。ハさんの暴露にもかかわらず、朴氏は大韓体育会はもちろん、スケート

連盟懲戒も受けずにスケートリンクに戻ろうと試みたわけだった。ハさんは、「じっとしていると私はばかになると思った。それで勇気を出して告訴を準備することにした」と話した。

しかし、痛みを伴う経験を思い出して他人に知らせることは容易ではなかった。ハさんは「一次ミートゥーでマスコミインタビューをする時のように、一人で出かけてまた調査され、被害事実を立証しなければならぬのが本当に怖かった。警察で陳述する時もとても大変で、よくトイレに行って泣いた。極端な選択まで試した」と話した。



#### 2年前を思い出すミートゥー、連盟保護？「期待もしない」

2年前、ミートゥー当時の愉快ではない記憶は、ハさんが刑事告訴を躊躇させた原因となった。ハさんは当時暴露する心の準備ができていなかったが、周辺にいた先輩たちが強く“ミートゥー”を勧めたという。「あちこちから連絡が来ました。シム・ソクヒ選手もミートゥーをしたし、声を出す選手が多いので参加するよう説得されました。悩んだ末、応じました。」

しかし、若干19歳でミートゥーによる心的負担を余儀なくされるのは容易ではなかった。ハさんは「CNNを含めてメディアインタビューを3つほどしたが、セクハラ被害をずっと私の口で言わなければならないストレスがかなりひどかった。インタビューを手配した先輩たちに大変だと話したが、役に立たなかった。スケジュールがずっと埋まっていた」と伝えた。ミートゥー暴露後、体育会とスケート連盟で心理相談などを助けようとする動きはなかったかと聞くと、ハ氏は「期待もしなかった」と言った。政治家たちも当時、彼女の心を包んでくれなかった。ある国会議員はハさんを訪ねて実名で記者会見をしなければならぬと畳みかけた。ハさんは「あの方が『可愛いから顔を出して放送に出ればいい。スケートもやり直しなさい。今後何で食べて生きていくのか』と言った。」とあつけに取られた。

#### 過酷な行為、長期間繰り返し…コーチは嫌疑否認

2年前、若い年齢にもかかわらずハさんがミートゥー暴露に出たのは朴氏の過酷な行為が長期間にわたって繰り返されたためだ。ハさんは朴氏がコーチでいたチームに入る直前、全国大会で3冠王を占めるほどに嘆望されるスピードスケート有望選手だった。

ところが朴氏に会って不幸が始まったという。ハさんの弁護人の意見書などによるとハさんは朴氏の私設講習チームに入った2016年4月から2017年11月まで少なくとも5回にわたりセクハラと暴行を受けた。

ハさん側は朴氏のガスライティング（状況操作による心理支配）もあったと言う。ハさんは「朴氏が事あるごとに『お前は国家代表のコーチの下で特恵を受けている』と言って大事にする言葉を言ったかと思うと、気に入らなければ『お前の家は貧しいからこんなふうにするのか』と悪口を言ったりもした。そんな言葉を長く聞いていると精神錯乱もした」と話した。ハさんは現在4年以上精神科相談を受けている。朴氏が属するチームから抜け出すことはできなかつたのだろうか。ハさんはただ頑張ったと言った。彼女は「お母さんが夜明けまで働き、私の世話をした。コーチに“誠意表示（お金上納）”する事もできなかった。私がかうまくいかなければ終わりという考えで耐えた」と話した。

朴氏はハさんが主張するセクハラと暴行嫌疑のいずれも事実ではないと反論した。彼は韓国日報との通話で「警察から起訴意見として検察に送られるという文書は受け取ったが、ハさんをセクハラしてない」と主張した。朴氏は暴行容疑に関しても「そんなことしてないのにハさんの告訴のせいで疑惑が認められてしまった」と話した。彼は現在所属チームなしでスケート個人講習などを行っている。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021101819150005812?did=NA>

## 07 韓国日報 2021. 12. 20 [歪んだスポーツ]

### 「崔スクヒョン仲間」の2次、3次被害「悪い記憶だけでも消えますように」



33㎡（約10坪）余りの自炊部屋には小さな運動道具一つなかった。将来の希望に「国家代表」を書き出した選手の部屋だと信じにくいほどだった。去る6日、大田西区で会ったトライアスロン選手のジョン・ジウン(24)氏は「運動はこれ以上見たくもない」とした。彼女はチーム内の過酷な行為で極端な選択をした故崔スクヒョン選手の被害事実を証言した後、スポーツ界を去った。しかしここで終わらなかった。彼女は日常に戻れないまま二次、三次被害を訴えていた。

トライアスロン有望株だったジョンさんもスポーツ暴力被害者だった。

2016年から3年間、慶州市役所チームで経験した暴力は、彼女の体と心に消えない傷を残した。彼女は今も寝る前にパニック障害と広場恐怖症、うつ病の薬を飲んでいる。1日2回ずつ飲んでた薬を1回5粒に減らしたただけだ。精神的トラウマは大田市役所にチームを移した後も彼女を苦しめ、結局、人生のすべても同様だった運動さえ止めることになった。

最近彼女が祈っている願いは悪い記憶を消すことだ。「牛、豚でも受けない扱いを受けたので、今でもその時の思いがしばしば思い浮かんで辛いです。その記憶を消せるのなら催眠術など何でもしたいです。」

当時の記憶をたどって話すジョンさんは、いつの間にか手を振っていた。

#### 受け継がれる暴力、「政党防衛」の名に化ける場合も

彼女は選手時代に数え切れないほど、そして理由もわからずに周辺のいろいろなもので殴られたという。先輩選手は後輩を殴るために愚かな理由まで作った。ある先輩は彼女にこう言った。「あなたが私を一発殴れ。そうすれば私はあなたを殴ることができる。これは政党防衛だ。」ジョンさんが躊躇すると先輩は別の選手にさせた。瞬く間にジョンさんの手が先輩の体に触れていた。先輩は待っていたように彼女の頬を三発殴った。正当防衛という名前の暴力は数えられなかった。監督は主将を、主張は先輩を、先輩は後輩に手を出した。暴力は受け継がれた。

彼女は今でもパンが嫌いだ。ひどい経験が鮮明に残っているからだ。「2017年、慶北<sup>ムンギョン</sup>閔慶訓練の時でした。主将がデザートでコーラを注文して一杯ずつ飲みました。領収書を見た監督が女子選手たちを呼び寄せて太ったとののしりました。パンを20キロ与えて『お前たちが好きなパンを吐くまで食べてみろ』と言いました。食べなかったら殴って吐きながら食べました。」

訓練中にセクハラ発言を聞くことも茶飯事だった。「Xのような奴は尻が大きくなったようだ」生まれてから聞いたことのない接頭辞がついた悪口も多かった。ジョンさんは暴力を正当化した自分に怒るという。

「先輩が、ハンガーでお尻全体が穴があいたくらい殴られた後にメンソレータムを塗ってくれました。それでは暴力が私のためだと自らガスライティングしたようです。」

### 崔スクヒョン選手の告発後1年半…変わったことはなかった

崔スクヒョン選手が世を去ってから1年半が経った。その間、最高裁判所は加害者の主張を排斥し、金ギュボン前監督に懲役7年を、主将チャン・ユンジョン氏に懲役4年を確定した。勤労福祉公団は崔選手の死を職場内の嫌がらせによる産業災害と認めた。スポーツ選手の中で初めてだった。

このように表面では正されているように見えたがジョンさんは「大きく変わったことはない」と言った。まず業務上疾病判定書を受けたが、崔スクヒョン選手の遺族はまだ傷害死亡保険金を支給されていない。保険会社が金融監督院に紛争調停を申請したためだ。

周辺選手たちもスポーツ暴力がつけた傷にこれまでも苦しんでいる。彼女らは当時の記憶をやっと取り出して証言し自分が受けた被害を立証してから2次、3次被害を被っているという。だから暴力を証言した選手のほとんどは運動をやめた。



特に依然として誤りを認めていない加害者の姿は、勇気を出して証言した選手をさらに痛める。加害者として指摘され刑事裁判を受けているあるコーチは、韓国日報との通話で「私のために大変だったら申し訳ないと思う。しかし過酷な行為はなかった」と主張した。見通しの無い民・刑事訴訟につながる場合も少なくない。その中には、加害者が訴訟を提起して報復論議が提起されてから取下げた場合もある。

### 根が抜かれていないスポーツ暴力。絶えない第2の金ギュボン監督

ジョンさんを最も絶望させるのは今でも「第2の金ギュボン監督」が出ているという事実だ。韓国日報が入手した職権調査決定文によると、スポーツ倫理センターは去る9月、文化体育観光部長官とソウル市体育会にソウル市役所トライアスロンチーム指導者の暴言、強要、不正疑惑事件を調査して懲戒しなければならないと勧告した。忠南道民人権センターも、天安市役所トライアスロンチーム監督による選手体罰及び人格権侵害に対して人権救済措置を取らなければならないという意見を出した。

ジョンさんは世を先に去った崔スクヒョン選手にこのような言葉を伝えたいと言った。「私たちはその時、本当によく耐えました。その時の事は忘れて再び新しい出発をしてみましょ。楽しく生きてみましょ」乾いた唇を開いた彼女が慎重に話した。「実は自分にかけたかった言葉みたいですね」恥ずかしそうに笑った彼女の目頭が潤んだ。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021121020220000182?did=NA>

## 08 韓国日報 2021.12.22 [歪んだスポーツ]

学暴選手、「ワンストップシステム」で大学進学から韓国代表大抜擢まで防ぐ



学生選手に深刻な学校暴力加害前歴がある場合、「懲戒情報システム」を通じて履歴を管理する。選手活動はもちろん、以後大学やプロ・実業チーム進出にまで影響を及ぼすようにして運動選手の学暴を根絶するというのだ。

#### 学暴懲戒情報共有「ワンストップシステム」

教育部と文化体育観光部は 22 日、第 23 回社会関係長官会議で懲戒情報システム構築方案を議論した。

運動選手たちの学暴問題の深刻性が知られ、政府は去る 2 月「学校運動部暴力根絶及びスポーツ人権保護体系改善方案」を出した。これにより先月から大会出場前に学生選手たちに「学校暴力履歴がない」という誓約書を受けている。誓約書の内容が虚偽の場合、大会出場記録、入賞記録などが全て取り消される。事実上、学暴選手の大会出場を制限するのだ。

来年には懲戒情報システムを構築する。各級学校が文体部傘下のスポーツ倫理センターに学暴の法的措置情報を提供すればスポーツ倫理センターがこれをすぐに該当種目団体に渡して大会出場や登録を制限できる「ワンストップシステム」を作る。当該情報を省庁間で共有できるよう、現在国会を通じて関連法改正を進めている。

大会出場制限期間は軽微な事案の場合は 3 ヶ月～1 年、セクハラは 5 年、レイプや擬似レイプおよびこれに準ずる性暴力は 10 年である。

#### 学暴履歴 国家代表欠格事由

学暴履歴はその後も続くようになる。文体部は体育特技者特別選考に学暴事項を反映する大学に加算点を与えることにした。実業チームにも学暴履歴がある選手は職権免職など制裁できるようにする内容の標準運営規定を設けるようにした。来年の財政支援事業公募審査の際この運営規定があるか否かを反映する。プロスポーツの場合でも新人選手の学暴履歴が明らかになった時、賞罰規定が種目別に少しずつ違ったが、最大除名までできるように規定を統一させた。学暴や人権侵害などで受けた懲戒を国家代表選抜欠格事由に該当するように国家代表選抜規定も改正された。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2021122213490004538?did=NA>

## 09 週間スポーツ関連ニュース

国家代表を育てたチェ・ビョンヒテニスコーチ、選手暴行に見逃し処分

<https://www.joongang.co.kr/article/25034844>

過去 2 年間の体育指導者 2,240 人の資格を取り消す

<http://www.lecturernews.com/news/articleView.html?idxno=84601>

スポーツ倫理センター、「会計不正」A 連盟会長に捜査依頼および懲戒決定

<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01236566629281472&mediaCodeNo=258>

中国「日本、お互いに支えてスポーツ政治化しないという約束を守る道」

[https://newsis.com/view/?id=NISX20211224\\_0001701280&cID=10101&pID=10100](https://newsis.com/view/?id=NISX20211224_0001701280&cID=10101&pID=10100)

文体部 2 次官、「スポーツ人権保護協議体」開催…履行状況点検

<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01259526629281144&mediaCodeNo=258>

スポーツ倫理センター慶南事務所キム・ヘソ最初の一步

<http://www.gimhaenews.co.kr/news/articleView.html?idxno=44309>

熱く抱いて空に上がった星…ユ・サン Chol 監督とキム・ホンビン隊長

<https://www.news1.kr/articles/?4533923>

韓国、日本スポーツ用品最大輸入国…日本輸出量のうちなんと 45.5%

[https://sports.khan.co.kr/sports/sk\\_index.html?art\\_id=202112260213003&sec\\_id=530101&pt=nv](https://sports.khan.co.kr/sports/sk_index.html?art_id=202112260213003&sec_id=530101&pt=nv)

国民体育振興公団、ワディーズと共にスポーツスタートアップ支援

<https://www.news1.kr/articles/?4533444>

## 体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と  
福祉実現のために努力しています。

皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための  
体育市民連帯活動に強固な土台となります。

体育市民連帯会員として力になろうと  
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

### INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.vg.jp.org/sportscm/index.html>